

全日中事務局だより

▼運動部活動の地域移行に関する検討会議(第2回)において提示された「休日の地域におけるスポーツ環境が整備充実される以前の学校運動部活動の在り方」に係る資料の一部を1月号に掲載いたしました。その続きとして現在、全日本中学校長会としての基本的な考え方をまとめているところです。具体的には第3回Web理事会の中の情報交換会において各ブロックに分かれて検討がなされました。その際の際の原案として示した「全日中としての基本的な考え」を掲載いたします。また、論点整理がされていますので、全日中としてのコメントも一部併せて掲載いたします。運動部活動については、地域の違いにより様々な御意見があるかと思いますが、ご意見をお寄せいただければ幸いです。

少子化が進み、また学校教育の質をさらに高め、教員の健康を守るために学校の働き方改革を進めていく必要がある中、生徒の興味関心に応じてスポーツの機会を提供するという、学校の運動部活動が担ってきた役割を、引き続き学校が担っていくことは大変困難であり、持続可能ではないと考えます。

そのため、「運動部活動の地域移行に関する検討会議」において議論している、学校の運動部活動を段階的に休日から持続可能な地域主体の活動に移行することは、将来にわたって生徒にスポーツの機会を確保していくために、必要なことと考えます。

また、近い将来には現在の学校での部活動を全面的に地域等へ移行していくことも、現状及び今後の状況を鑑みると積極に進められていくべきであると考えます。

▼全日本中学校長会綱領から

昭和52年2月26日に制定された全日本中学校長会綱領の冒頭には「われわれは校長としての使命に徹し 結束して中学校教育の振興に努め もって国民の信託に応える」としています。このことから、全日本中学校長会として、学校の運動部活動の現状と課題を的確に捉え、今後、校長会の使命と在り方を踏まえて検討し、結束して一つの方向に進めることが大切であると考えています。そのため共通の認識に立ちつつ、地域移行に後ろ向きと受け取られないよう、働き方改革や部活動改革の当事者であり、取り組みを推進していく立場でもあることが分かる表現になっています。

▼論点整理(一部抽出)↓◇と全日中として考えているコメント(一部)↓◆
◇地域移行に伴う部活動の「教育的側面」の継承と持続可能な活動への改革について

◆現在、少子化の進行による生徒数の減少とそれに伴う教員数の減少、学校の統廃合が進んでいること等により縮小傾向にある運動部活動が、持続可能な社会教育体制により生まれかわり、教員の「働き方改革」の進展、中学生の体力及びスポーツ志向の向上、生徒の成長にみんなで関わろうとする考え方の醸成に結び付くことを望みます。

◇活動に参加する生徒の実態に応じた適正な活動計画の策定について

◆平日の活動と休日の活動について、指導者が異なる体制は、生徒の視点で捉えた場合、相当の困惑が予想されることを念頭に、社会全体で環境整備に努める必要があります。また、現在教育課程の一環として位置付けられている「中学校部活動」の意味や役割を確認しておく必要があります。

◇災害給付について

◆現在、独立行政法人日本スポーツ振興センターが行っている児童生徒等の

災害に対する災害共済給付についても並行して検討し、活動中において発生した児童生徒の災害について補償体制を整える必要があります。

◇参加する生徒の費用負担について

◆主體的に意欲をもって活動に参加するため「ある程度」の費用負担を参加する家庭に求めることはやむを得ないと考えます。一方で、その負担が重くなれば、参加の機会を失わせることが考えられることから、経済格差による影響が出ないよう、公的支援等による活動団体及び参加生徒への支援が行われることを望みます。

◇指導者に対する報酬及び労働災害発生時の補償等について

◆部活動指導中の教員に発生した災害補償について、部活動の地域移行期間中及び移行終了後のそれぞれについて明確化しておく必要があります。なお、この点については、教員に限定されるものではなく、運営に従事する者

全員を対象とすべきであります

◇教員の「兼業・兼職」の認定及び指導の資格等について

◆活動を継続させ、指導者確保の観点から、教員の「兼業・兼職」の認定を早急かつ確実な実現を望みます。

◇教員、部活動に取り組む（取り組むとする）現役の生徒や保護者への早急な対応について

◆運動部活動の改革の真っ只中にいる学校の教員、現在部活動に参加している中学生とその保護者、さらに近い将来、中学生になる児童が、これから中学校の部活動がどうなるのかについて、的確な情報発信をする必要があります。

会員計報

千葉県市原市立千種中学校長

山崎 剛様 六十歳 十二月二十二日

謹んでお悔やみ申し上げ、御冥福をお祈り申し上げます。

(事務局長 松澤 宏尚)